

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2871700676		
法人名	医療法人社団うしお会		
事業所名	グループホームおのころ		
所在地	南あわじ市八木寺内1140-6 (電話) 0799-42-7360		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年8月18日	評価確定日	平成20年10月22日

【情報提供票より】(平成20年7月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13人, 非常勤 1人, 常勤換算12.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,020 円	その他の経費(月額)	16,020 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(7月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八木病院・後藤歯科医院
---------	-------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

南あわじ一帯を占める三原平野の「ゆずるは山系」に抱かれた田園地帯の一角にグループホームおのころがある。母体である医療法人が経営する病院及び小規模多機能ホームが隣接しており、当該グループホームにおいても、医療連携体制加算を活用した利用者の健康管理の充実に努めている。また、利用前に居住していた地域との継続性を維持するためにも「里がえり支援」と称する特別な外出の支援を実施し、多機能性を活かした柔軟な支援に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	<p>前回評価時は開設間もないこともあり、運営推進会議は未開催であったが、その後2ヵ月に1回開催している。その他の改善課題については、改善に向けて引き続き検討中である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>自己評価は、職員全員が各自で自己評価票を作成し、それをもとにミーティング等で意見交換してまとめたものであり、評価そのものの意義については、管理者、職員共理解している。全員参加のうえで、評価時に行った議論の会議録等を作成することなどを通して、具体的な改善につなげることが望まれる。</p>
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	<p>前回評価の課題であった運営推進会議の開催については、2ヵ月に1回程度開催しており、ホームの行事の報告などを中心に意見交換がなされている。また、運営推進会議のメンバーには、地区区長・民生委員・地域包括支援センター職員等が参加しており、出席率も高い。ただし、報告事項が大部分を占めており、双方向の議論にはなっていない。会議の趣旨を踏まえて、特に地域住民への積極的な働きかけが期待される。</p>
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	<p>家族の訪問時等に利用者の状況を事細かに報告するなど、家族との意思疎通には日常的に努めている。家族が意見や苦情を言にくい状況にあることを踏まえて、意見を汲み上げる方法、システムについての工夫が望まれる。</p>
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	<p>開設して間もないが、地域とのつきあい、交流も徐々に広がってきている。運営推進会議も開催しているので、運営推進会議を活用して、今後、さらにその拡がりが見られるようグループホーム側からの積極的な働きかけが期待される。</p>

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体である医療法人の考え方に沿った理念と基本方針を作成しており、玄関など見やすいところに掲示し、家族等にも説明するなど理解を求めることに努めている。		地域密着型サービスとしての役割をめざした内容となるよう地域との関係性重視の観点から、なお検討していくことが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングや職員会議など機会を捉えて、理念に関する理解を深め、ほとんどの職員が理念を暗記するほどになっている。		ほとんどの職員が理念を暗記しているが、その理念が日々の実践に活かされるようにより一層の努力が期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や婦人会の方にボランティアに来ていただいたり、幼稚園児との交流及び地域での清掃奉仕への参加など徐々に交流を広げている。		運営推進会議等の場を活用して、さらに交流の輪が広がるよう積極的な働きかけが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員が各自で自己評価票を作成し、それをもとにミーティング等で意見交換してまとめたものであり、評価そのものの意義については、管理者、職員共理解している。		全員参加という自己評価の手順は評価できる。さらに、全員参加のうえで、評価時に行った議論の会議録等を作成することなどを通して、具体的な改善につなげることが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>前回評価の課題であった運営推進会議の開催については、2カ月に1回開催しており、ホームの行事の報告などを中心に意見交換がなされている。また、運営推進会議のメンバーには、地区区長・民生委員・地域包括支援センター職員等が参加しており、出席率も高い。</p>		<p>運営推進会議は、報告事項を中心に進められているので、参加者の意見をサービス向上に活かすためにも、双方向で議論しあえる会議のあり方の検討が望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の介護保険課の担当者とは日常的に連携を取っており、月1回程度ホームへの訪問がある。その際に、ホーム内の状況報告をするとともに意見交換、情報交換を密にしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ほとんどの家族は、月1～2回の訪問があり、その機会を捉えて利用者の状況を事細かに報告するとともに相談にも応じている。また、訪問時に金銭管理の状況についても報告し、了承を得ている。行事の開催時には、写真や手紙を添えて近況を報告している。</p>		<p>個々の家族への対応はしっかりと行われているので、今後は、広報誌の発行等を通して、ホームの取り組みについての情報発信の充実が期待される。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理要領に基づき、苦情相談窓口及び担当職員名を伝えている。職員が日頃からの家族との日常的やりとりの中から、苦情や意見を汲み取るよう努めている。</p>		<p>家族からの苦情や意見を汲み上げ、現場に反映するためにも、意見箱の設置、アンケートの実施や家族会の結成などの取り組みが望まれる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の退職は、開設以来3年間で5人と比較的少なく、また法人内での異動もなく、今後も行わないとの方針であり、その意味で馴染みの関係は維持されている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修、認知症対応型サービス管理者研修などグループホームでは必須の研修を初め、各種団体が主催する研修会にも参加している。また法人内における医療、リハビリに関する勉強会にも参加している。		参加した研修内容を報告する方法として、復命書等で職員全員が共有できる仕組みづくりが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会に加盟するとともに、管理者が連絡会あわじ支部の役員を務めている。その関係もあって月1回は定例会、その他、年3回程程度の研修会に参加し、情報交換も頻繁に行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に当たっては、家族と本人と一緒に見学に来てもらっている。見学時に、他の利用者とともに半日程度、一緒に過ごしてもらい、一度で馴染みにくい場合は、その後利用に慣れるまで何回でも来てもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からは教えてもらうことも多く、尊敬の念をもって接することを職員間で申し合わせている。また、利用者との関係においては、プライバシーを尊重しつつ、過剰な介護は避け、自分でできることは行ってもらうよう心がけている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>その日の身体状況により声かけするなど、きめ細かな日々の観察により、その人の思いや意向を把握することに心がけている。また、把握が困難な人には、家族からの情報及び職員間の情報交換により把握に努めている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族や利用者の意向を取り入れながら、介護計画を作成しており、作成後の目標に対する支援経過もケアカンファレンスで随時検討している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>家族や利用者の意向を聞きながら、職員によるケアカンファレンスでの検討を経て、6ヵ月に1回の見直しを行っている。また、状況の変化があれば、その都度見直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を活かして契約病院から週2回看護師の派遣を受け、利用者の健康管理に当たるとともに、24時間連絡体制により緊急時における対応に万全を期している。また、利用者の「里帰り支援」という特別な外出の支援も実施している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医に受診している利用者は1名であるが、それ以外の方は、本人及び家族の了解のもと、協力病院である八木病院に受診している。受診時の通院は、協力病院の診療科目以外は、家族が付き添うことで合意している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合の対応指針に基づき家族に説明し、その運用について継続して話し合っている。重度化への対応について、設備的にも困難な状況にあるが、可能な限りホーム内で介護していく方針であることを家族にも確認している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の言葉や語調などが、利用者のプライドを傷つけないよう細心の注意をはらうことを職員間で申し合わせている。また、個人情報及び記録の取り扱いについては、漏洩することのないようミーティング等で徹底している。</p>		<p>親しみを込めて接している利用者への言葉かけや対応が、人生の先輩に対する言葉かけ・呼び方や態度となっているか、再度検討することが望まれる。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝起きれない時は無理に起こさず、行事参加も本人の意思を尊重して無理強いはしない。また、散歩に行きたい時は、可能な限り同行し、利用者の望んでいるペースに合わせた支援ができるよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、三食ともホーム内で調理している。味見、盛り付け、配膳、片付けなどの作業に一部の利用者ではあるが参加している。献立も利用者の好みも取り入れながら、作成し、調理されたものは職員と一緒に食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週3回で14時から16時の間と決められており、その間に9人(1ユニット)が入浴することとなっている。		希望の時間に入浴できることが最善であるが、それまでの一歩として、一日の入浴人数を減らし、回数を増やしてゆったり入浴してもらうことを検討中であるので、まずはその実現に期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園の水やり、食事の片付け、新聞取り、カーテンの開け閉め、エプロンたたみなどの役割を受け持つことにより、張り合いをもって生活してもらえよう支援している。また、歌の好きな利用者のもと、三々五々集まって歌を楽しめるような環境設定にも心がけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り本人の希望を取り入れながら、日常的に、週1回の買い物、散歩、喫茶店通いなどの外出支援に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ベランダや庭に出るのは自由であるが、1階玄関から外に出る場合には、暗証番号を押さないと外に出れないシステムになっている。		玄関は、鍵をかけることが常態化している。見守りの連携の強化など、鍵をかけずに、安全に過ごせる方法について引き続き検討を行うことが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時マニュアルに基づき年2回、防災訓練(警報、消火器具等使用、避難等)を消防署の協力を得て実施している。</p>		<p>非常時には地域、特に近隣の協力が不可欠であるので、今後は運営推進会議等を通じて地域への協力を積極的に働きかけることが望まれる。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの食事量、水分摂取量は毎日把握しており、さらに体調に応じた対応もきめ細かに実施している。また、栄養バランスについては、必要に応じて隣接の同一法人病院に勤務する栄養士の指導を受けている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関は、季節の花木などが置かれ、外来者も入りやすい雰囲気となっている。ホーム内には、マッサージ機及びソファなどが適度に置かれ、またテレビの前の畳敷きが居心地の良い空間づくりに一役買っている。のどかな田園地帯が一望に見渡せる、明るくゆったりとした居間兼食堂は、利用者が落ち着いて過ごせる場となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の名札掛けには、利用者が描いた季節の花の絵が飾られ、居室内には使い慣れたソファ、籐椅子、書斎机、仏壇などが持ち込まれている。また、その机などの上には、家族の写真、手作りの飾りものなどが置かれており、居心地のよさが窺える。</p>		

 は、重点項目。